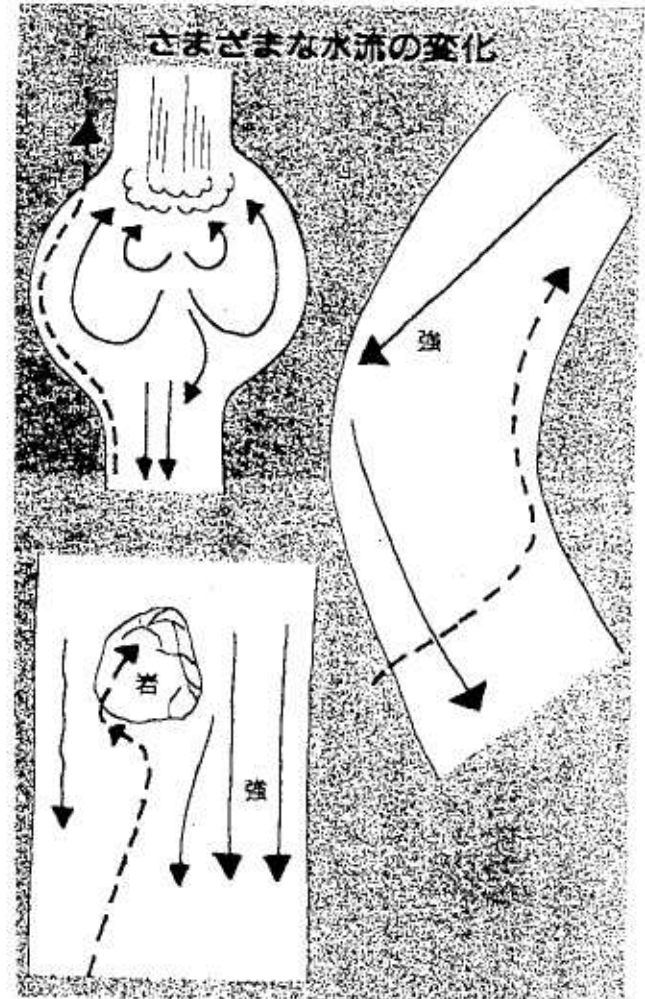


# 平成20年 度沢登り講習会

本日伝えたいこと

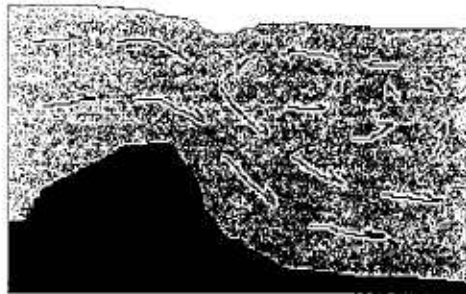
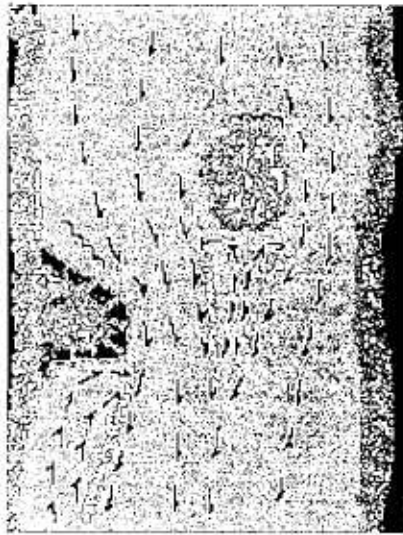
## 1.さまざまな水流の変化



山口県山岳連盟

## 1-1.エディー

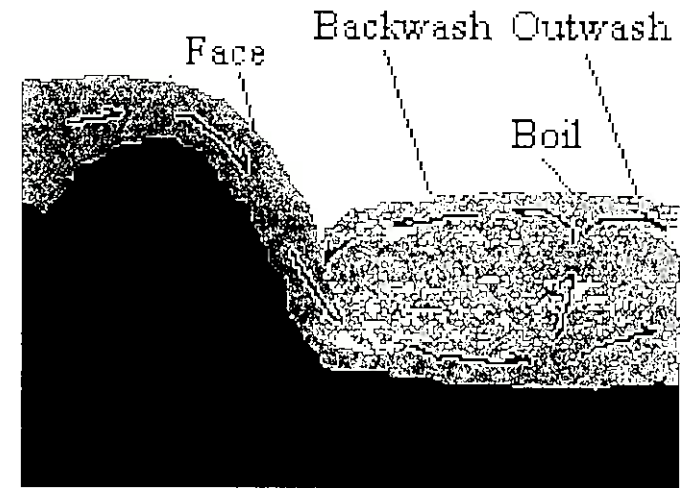
迂回する流れに水が集中し、物体を回り込む部分で流速が局所的に早まり、周囲より低い水圧が発生する。このため、物体の裏側(下流側)にある水が引き寄せられて、さらに下流の水を引き付ける。



## 1-2.ホール、ストッパー

大きな岩や滝状の水流の落ち込みでは、その下流側で下の図は、2種類のホールの典型を示したもので、下の負圧に下流側の水が引き込まれるとともに、空気を混入した水流が河床にそって下流に潜りながら送られた後に気泡とともに上昇し、上に向かう流れを発生させて、水面に出たところで上流側へ戻る流れと下流側へ出る流れに別れることから、落ち込みとの間で強い逆流が生じるものである。

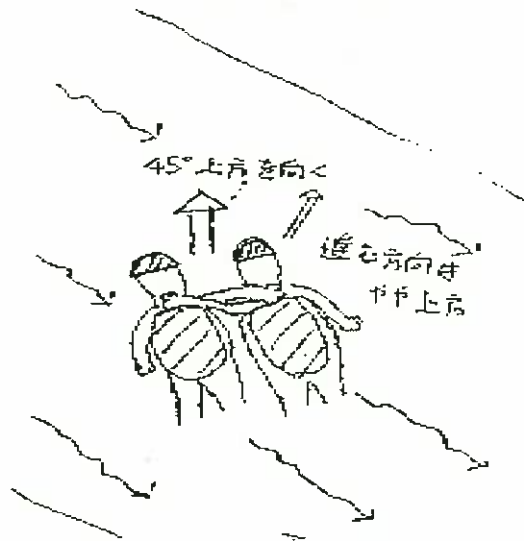
ホール、ストッパーと呼ばれるのは、ここに一度飲み込まれると抜け出すのが困難な場所であるからだ。回転しながら循環する水流は、落ち込み部分に吸い付けられるようにボートや人を飲み込み、場合によっては大きな事故につながる。



## 2. 激流の渡渉

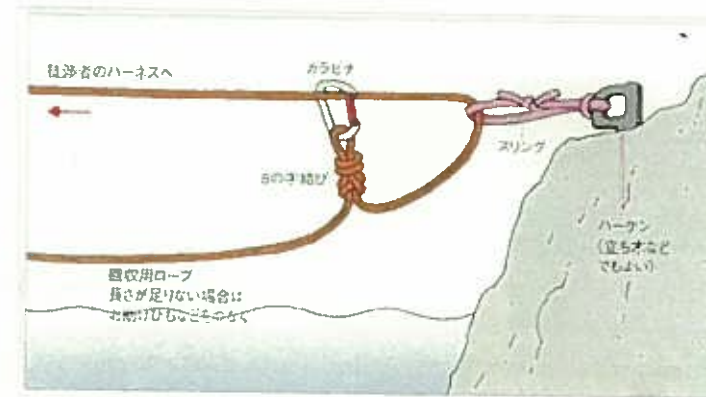
### 2-1. スクラム、肩組渡渉

- ◆ ザックの肩ベルトやザック上の引き紐をつかんで肩を組むような形で相手を押しつけ合うように渡渉する方が良い。
- ◆ 身長の高いものは浮きやすく不利になるので川下側に組ませ、高い人は上か押さえつけるように組んで安定させる。
- ◆ ザックは浮き袋同然なのでウエストベルトは外しておく。
- ◆ 渡る方向は斜め上を目指し体は斜め上 30~45度の半身で進む。水勢が強いとこれでようやく真横にわたれる程度になってしまう。
- ◆ 3人の場合は2人組の後ろからザックを前に押さえつけるように組んでついていく。(逆3角形: 騎馬戦の反対の形) あくまで軽く前へ押さえ気味に力を掛ける。3人横並びの形は障害物を避けにくいので止めるべき。



### 2-2. ザイルを使用した渡渉法

- ◆ トップロープセットは半マスト結び(ムンター・ヒッチ)で行うが、カラビナのゲートはロック機能が付いた物とすること。ビレーヤーはロープの末端を5~6m残した所で、トップへの長さを調整して、半マスト結び(ムンター・ヒッチ)で固定する。
- ◆ ビレーヤーが確保する場所がない場合  
下図のようにロープをセットして、全員が渡渉し終わったら回収する





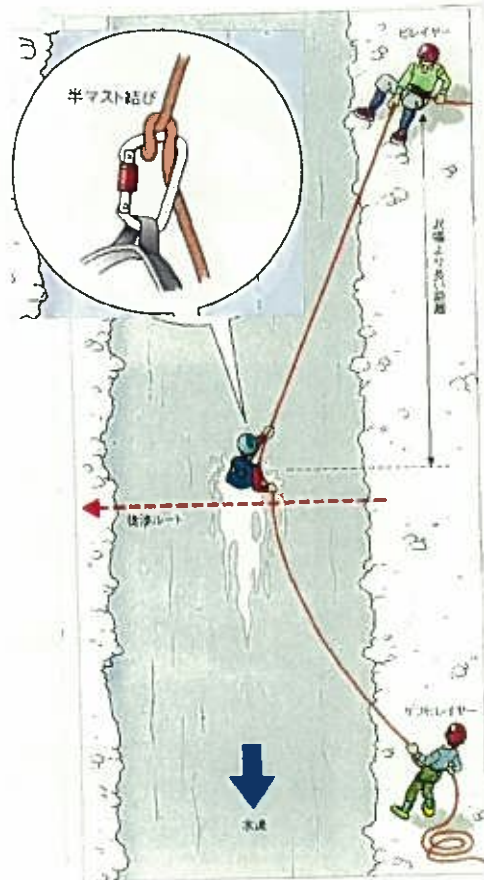
## (1) トップの渡渉

トップの渡渉者と確保者のロープの長さは沢幅以上とする。下流のサブビレーヤーは渡渉者より下流に位置する。

トップの渡渉者は上流側のロープに体重をかけ、ロープの長さを調整しながら渡渉する。

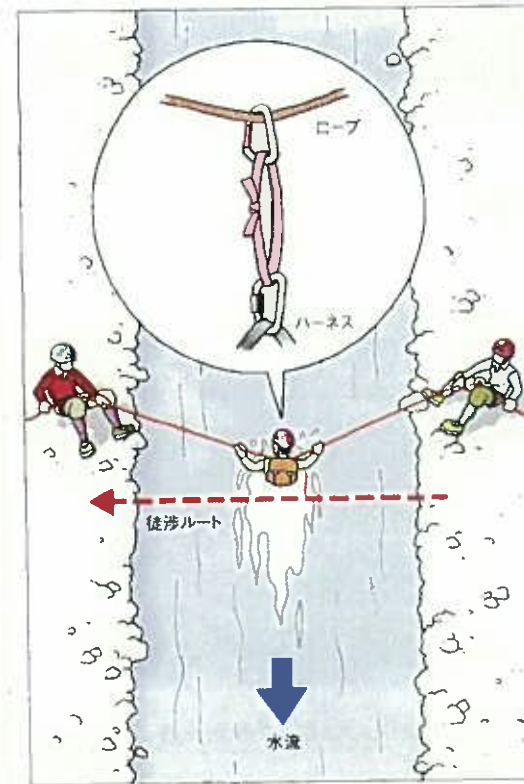
### ◆流された場合

- ①下流のビレーヤーがロープを手繰って引き寄せる。
- ②下流のビレーヤーがロープを持って下流へ走り、引き寄せる



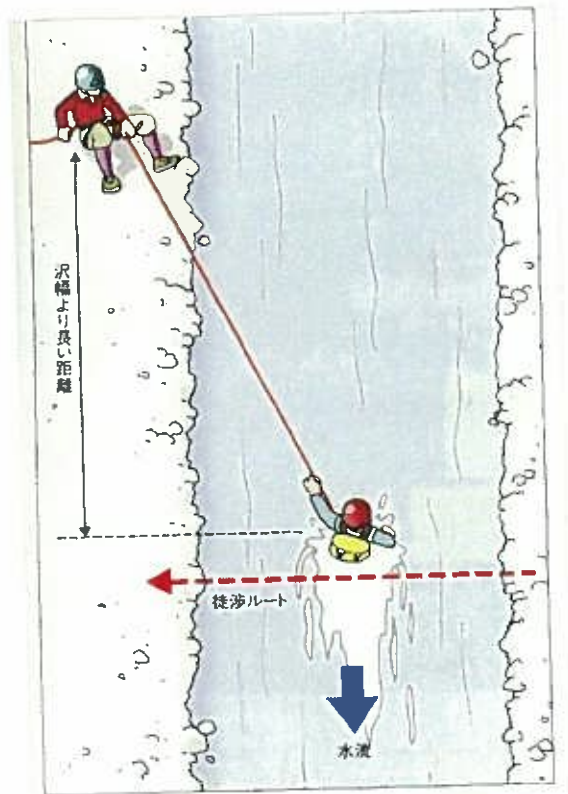
## (2) セカンド以降の渡渉

- ◆セカンド以降はメインロープとハーネスを又ンチャク状にしたにスリングで結合(手が届く長さ)し、ロープに体重を預けて渡渉する。



### (3) ラストの渡渉

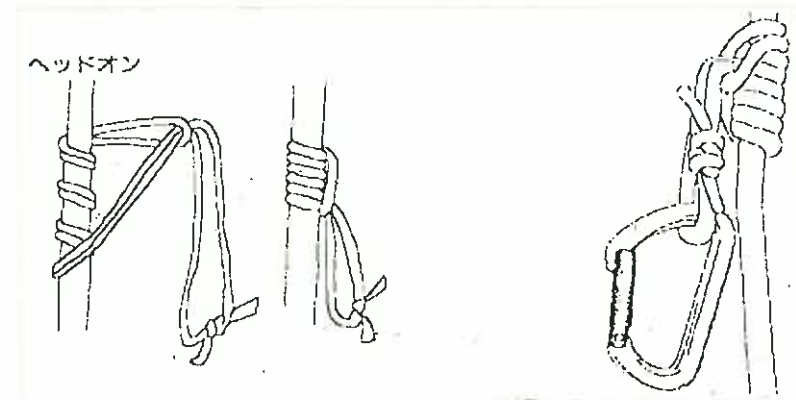
- ◆ラストはロープに体重を預けながら渡る。渡渉点が下流にズレて来るので、ロープを手繰って長さを調整する。



### 3.ロープワーク

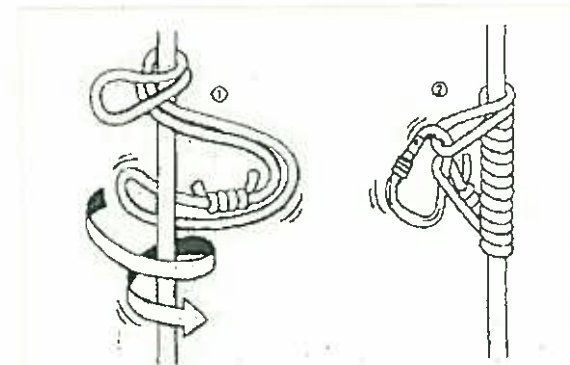
#### ①ヘッドオン

一本の長いスリングを使用して制動方法をかける場合に使用される



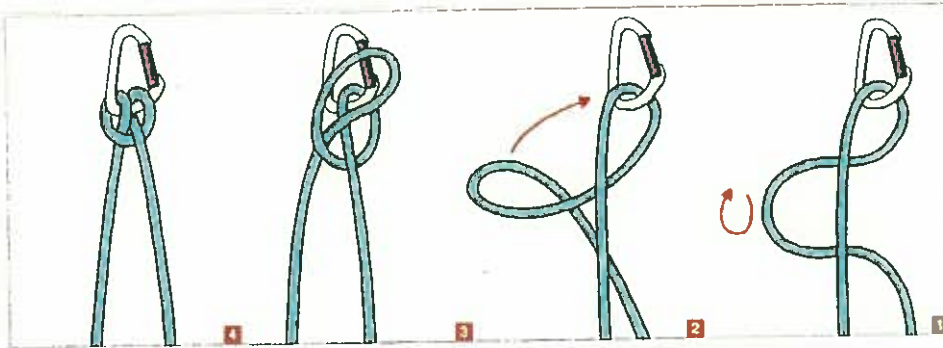
#### ②オートブロック

スリングによる確実な制動方法で、今一番使用される



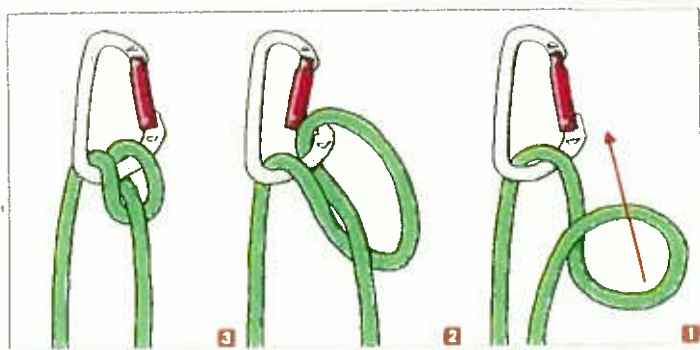
### ③マスト結び(クローブ・ヒッチ)

簡単に結べ、荷重がかかっても、荷重を抜けば簡単に解ける。セルフビレイの際等に用いる。



### ④半マスト結び(ムンター・ヒッチ)

ビレイの方法として使用



## 4.ハーネスへのロープ装着方法

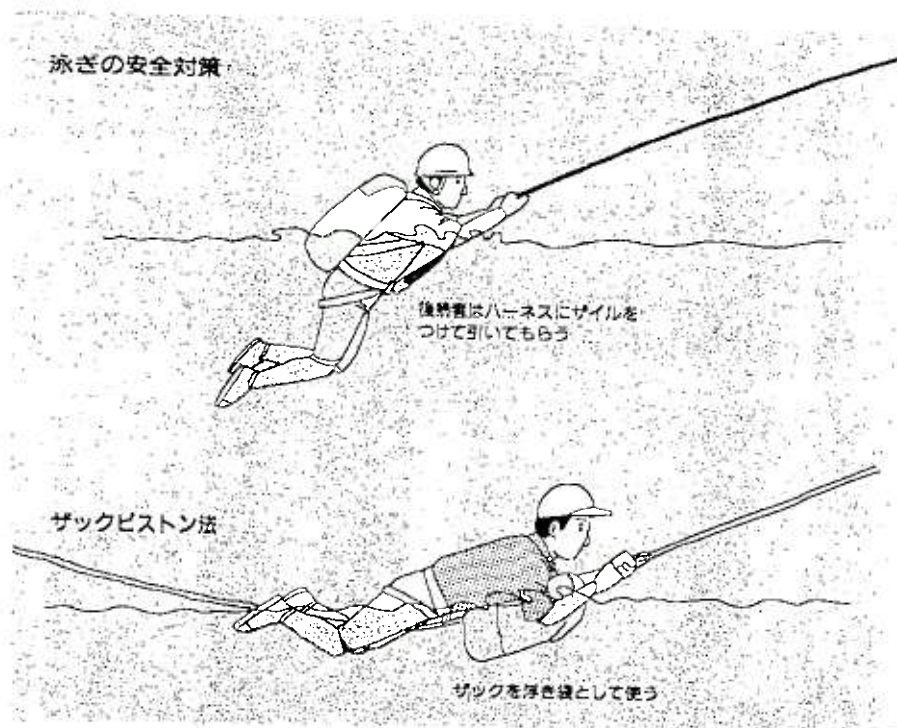
### ◆トップ&ラスト



### ◆中間者

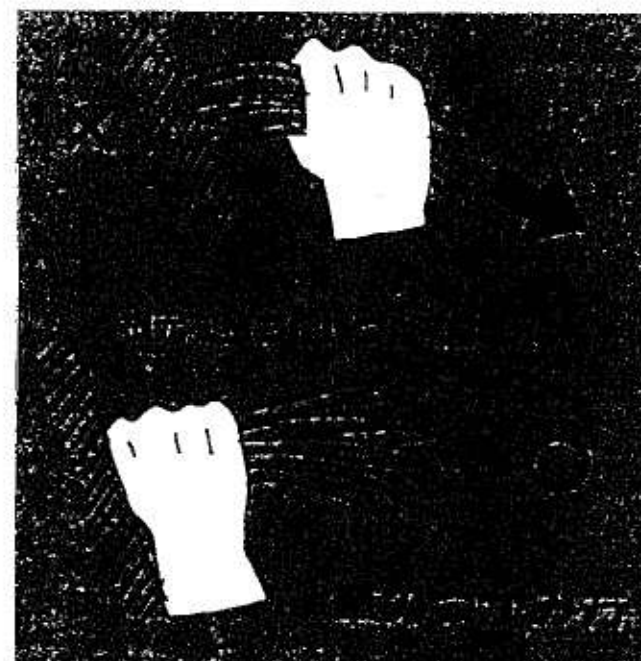


## 5. 泳ぎの安全対策



## 6. 草つきの掴み方

◆根元を持ち、押し付けるように！





## 7. ツエルトの張り方

